



Japan
Food
Research
Laboratories

試験報告書

第 506070686-001 号
2006年(平成18年)08月17日

依頼者

検体 消臭剤 水タイプ

表題 ガス除去効果試験

2006年(平成18年)07月31日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。

財団法人

日本食品分析センター



東京本部 〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町52番1号
大阪支所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町3番1号
名古屋支所 〒460-0011 名古屋市中区大須4丁目5番13号
九州支所 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1番12号
多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号
千歳研究所 〒066-0052 北海道千歳市文京2丁目3番

ガス除去効果試験

1 依頼者

BlueShell 株式会社

2 検 体

消臭剤 水タイプ

なお、依頼者から対照品として「消臭剤 Pタイプ(対照品)」の提供を受けた。

3 試験概要

検体及び対照品についてアセトアルデヒドのガス除去効果をガス検知管により試験した。

4 試験結果

試験結果を表-1及び図-1に示した。

表-1 アセトアルデヒドの試験結果

(単位：ppm)

試料区分	経過時間 (min)				
	10	30	60	120	180
検体	18	15	13	13	12
対照品	18	14	13	13	13
空試験	20	20	20	20	20

初期ガス濃度：約20 ppm

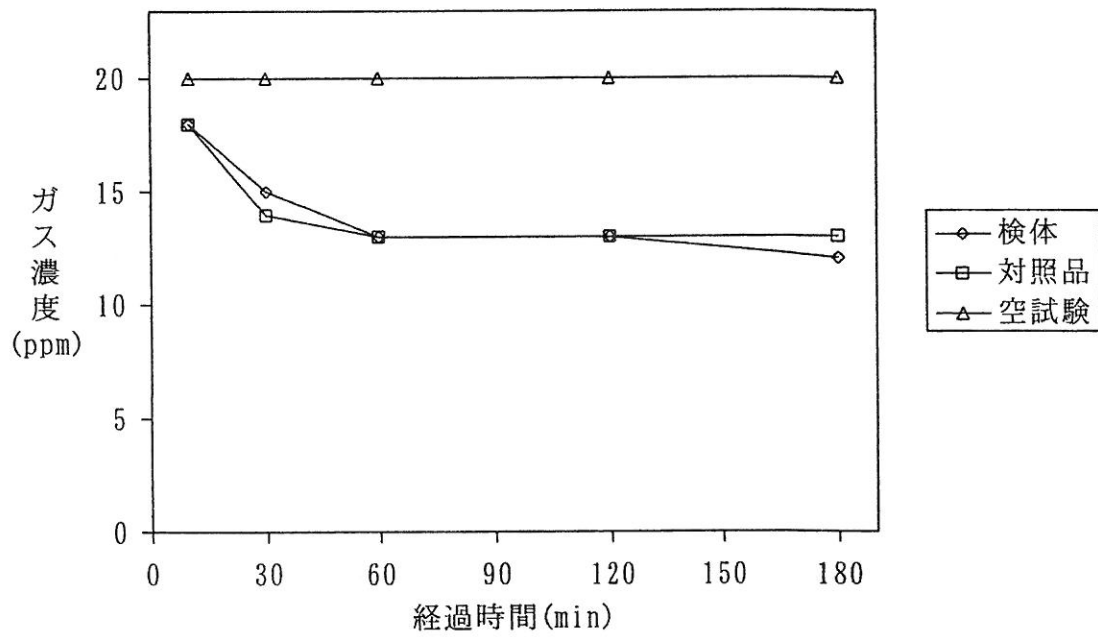


図-1 アセトアルデヒドの試験結果

5 試験方法

1) 試薬及び器具

におい袋 (25 cm×40 cm) [有限会社 ミヤコビニル加工所]

アセトアルデヒド(一級) [和光純薬工業株式会社]

ガス検知管 [株式会社 ガステック]

2) 操作

検体及び対照品をそれぞれにおい袋に入れ、ヒートシールを施した後、空気3 Lを封入し、設定したガス濃度となるように試験対象ガスを添加した。これを静置し、経過時間ごとに袋内のガス濃度をガス検知管で測定した。また、検体及び対照品を入れずに同様な操作をしたものを空試験とした。

試験条件を表-2に示した。

表-2 試験条件

検体使用量	検 体 : 5 mL 対照品 : 5 mL
試験対象ガス (初期ガス濃度)	アセトアルデヒド(約20 ppm)
温度条件	室温
測定時間	10, 30, 60, 120及び180分

以 上